

教員の学位及び業績

担当者氏名	担当科目	学位
今井 順一	数学科教育法Ⅰ、数学科教育法Ⅱ、数学科教育法Ⅲ、数学科教育法Ⅳ、教育実習事前事後指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習、教育方法論、総合的な学習の時間の指導法	博士(理工学)

担当授業科目に関する研究業績等					
担当授業科目	著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発行雑誌又は 発表学会等の名称	概 要
数学科教育法Ⅰ	(学術論文等) 初等中等教育での利活用を想定したeラーニングの運用方策の検討	共著	平成27年1月	教育システム情報学会	北海道全域で行われた地域連携型の e ラーニングの取り組みを実証評価の対象として、初等中等教育機関に e ラーニングを導入し運用する際の課題の整理を行う。さらに、これらの課題を解決するための特徴的な事項を抽出した上で、初等中等教育機関での利活用を想定した e ラーニングの運用にむけた一方策の提言を試み、ICT 活用スキルの修得を図る。 Vol.32,No.1,pp123-134,2015 執筆:長谷川理、山川広人、 <u>今井順一</u> 、小松川浩
数学科教育法Ⅱ	(学術論文等) 初年次数学教育における授業デザイン	共著	平成26年7月	日本工学教育協会	多様な学力層となっている入学生に対し、学生の学習状況にマッチングした授業デザインの構築を図った。高等学校の現役教員によるリメディアル型の授業やeラーニング等を組み合わせ、習熟度別授業のメリットを享受しつつ、質保障を担保できるような授業改善の提案と評価。 Vol.62,No.4,pp54-58,2014 執筆: <u>今井順一</u> 、河村真一郎、大河内佳浩
数学科教育法Ⅲ	(学術論文等) 小中高大連携による e ラーニングの取組	共著	平成21年11月	日本情報科教育学会	ICT活用という視点で、教科でのeラーニング活用のための体系的な教材整備と運営体制と数学での事例についての報告。 Vol.2,No.1,pp47-48,2009 執筆:小松川浩、 <u>今井順一</u>

数学科教育法Ⅳ	(学術論文等) 小中高連携による eラーニングの取組	共著	平成21年11月	日本情報科教育学会	「再掲のため略」
教育実習事前事後 指導	(教育実践記録等) 実践レポート長期休業 中における市内小中学 校の「学習ボランティア 活動」の実践指導	共著	平成26年11月	千歳科学技術大学「教育実 習協議会」	教育実習の事前指導の一貫として「 <u>学内 TA 実習研修</u> 」を全員に課している。 <u>教育実習前に、数学の授業(1・2年生)を教員の指導の下で TA として 5 回以上研修するものである。</u> <u>自分の専門教科を教える上で学内の教員の力を借りた事前研修である。</u> 教職履修の学生の指導を、学内総勢での実践として位置付けている。学生 は緊張感を持ちながらも、教材研究として準備に余念なく真剣に参加してい る。本学の特色である。 「共同研究により抽出不可能」 執筆：青塚健一、今井順一
教育実習Ⅰ	(教育実践記録等) 実践 レポート本学教職履修 学生による「教育実習」 実践の反省と次年度へ の取り組み	共著	平成26年11月	千歳科学技術大学「教育実習 協議会」	この取り組みは、「 <u>学外における教育実習研修</u> 」と称している。3年前から <u>千歳市教育委員会の要請を受けて、毎年夏季・冬季休業中の2～5日程度、 地域の小中学校に出向いて「学習ボランティア」の活動を実施している。2 年生～4年生の教職履修学生全員を対象とした教育実習の準備活動である。 市内の15校ほどの小中学校では、「学力向上推進プログラム」としてプロ教 師の指導のもとで児童生徒の学習支援を行うもので、教育実習前に計4回の 参加実績が大きな効果をもたらしているのである。</u> 「共同研究により抽出不可能」 執筆：青塚健一、今井順一
教育実習Ⅱ	(教育実践記録等) 実践レポート本学教職 履修学生による「教育実 習」実践の反省と次年度 への取り組み	共著	平成26年11月	千歳科学技術大学「教育実習 協議会」	「再掲のため略」

<p>教職実践演習 (中・高)</p>	<p>(教育実践記録等) 1. 実践レポート (1) 千歳高等学校定時制課程の訪問研修</p> <p>(2) 千歳小学校の「道徳」授業研究</p>	<p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成26年11月</p> <p>平成26年11月</p>	<p>千歳科学技術大学「教育実習協議会」</p> <p>千歳科学技術大学「教育実習協議会」</p>	<p>(1) 定時制課程における「数学」「生物」の訪問授業研究(高等学校訪問)である。学生がこれまで未経験である「定時制課程」、「通信制課程」を実体験できる貴重な研修である。市内の高等学校で職員や生徒と一緒に「給食」を試食した上で、授業研究と定時制課程の教育課程実践の講話を聴く内容である。ここでは、年齢層が幅広い生徒たちを教えるプロ教師の姿に感動を覚えることになる。 「共同研究により抽出不可能」 執筆：青塚健一、<u>今井順一</u></p> <p>(2) 小学校3年生「道徳」の授業研究(小学校訪問)である。本学では、小学校免許の取得はないが、今注目されている「道徳」の教科化に深く認識してもらいたいのである。高等学校では、学校生活のあらゆる場面を利用して、「道徳」を指導している。しかし、時間割に組み込まれている小学校の「道徳」をどんな授業展開をしているのかを研究する目的で訪問している。この事業は地元の教育委員会の協力を得て、学校訪問が実現している。 「共同研究により抽出不可能」 執筆：青塚健一、<u>今井順一</u></p>
<p>教育方法論</p>	<p>(学術論文等) 初等中等教育での利活用を想定したeラーニングの運用方策の検討</p>	<p>共著</p>	<p>平成27年1月</p>	<p>教育システム情報学会</p>	<p>「再掲のため略」</p>
<p>総合的な学習の時間の指導法</p>	<p>(学術論文等) 1. 探求型学習におけるICTを活用した授業デザイン</p>	<p>単著</p>	<p>令和2年3月</p>	<p>公立千歳科学技術大学紀要</p>	<p>2020年度から始まる新学習指導要領等で重点的に取り扱うこととなる総合的・探求的な学習についての内容を俯瞰し、その意義及び目的を明確にし、ICT活用による探求型学習の授業デザインを構築した。具体的には探求型学習の基盤となる探求手法を習得するための教材開発及び探求的な学習の進め方のガイド等のデジタル化を図り、タブレットによる活用法を示した。 著者：<u>今井順一</u></p>

総合的な学習の時間の指導法	(学術論文等) 2. 初等中等教育での利活用を想定したeラーニングの運用方策の検討	共著	平成27年1月	教育システム情報学会	北海道全域で行われた地域連携型の e ラーニングの取り組みを実証評価の対象として、 <u>初等中等教育機関に e ラーニングを導入し運用する際の課題の整理を行う。</u> さらに、これらの課題を解決するための特徴的な事項を抽出した上で、 <u>初等中等教育機関での利活用を想定した e ラーニングの運用にむけた一方策の提言を試み、ICT 活用スキルの修得を図る。</u> 著者：長谷川理、山川広人、 <u>今井順一</u> 、小松川浩
	(学術論文等) 3. 小中高大連携によるeラーニングの取組	共著	平成 21 年 11 月	日本情報科教育学会	<u>ICT活用という視点で、小中高等学校全般における、e ラーニング活用のための体系的な教材整備とその方法、および運営体制についての報告を行った。</u> 具体的な活用事例として、主に <u>高等学校数学での教材の整備状況と授業等における効果的な活用方法・課題等について論じた。</u> 著者：小松川浩、 <u>今井順一</u>
	4. 初年次数学教育における授業デザイン	共著	平成 26 年 7 月	日本工学教育	特に数学において、多様な学力層となっている入学生に対し、 <u>学生の学習状況を踏まえた初年次教育での取組。</u> 高等学校の現任教員による <u>リメディアル型の授業やeラーニング等を組み合わせた、習熟度別授業の展開等、ブレンデッドラーニングによる学習形態を通じ、質保障を担保できるよう改善を加えた授業デザインの提案と評価。</u> 著者： <u>今井順一</u> 、河村真一郎、大河内佳浩